



グランプリ/優秀賞
株式会社ソラコム

「IoT 通信プラットフォームSORACOM」

1日からでも使える低廉な料金体系 IoT向けサービスをMVNOで実現

IoT活用のためのプラットフォームとして、基本料10円/1日、利用料は1MBあたり0.2円～の従量制という低廉な料金体系のモバイルデータ通信サービスが、ソラコムの「SORACOM Air」である。ネットでも購入可能なSIMカード(1枚954円+送料)をデバイスに挿せば利用開始でき、契約期間の縛りもない。ユーザー自身がWebコンソールから4段階の通信速度プランの設定変更、利用中断・再開や解約、通信状態の監視・制御などを自由に行えることも、他に類のない特徴といえる。

執行役員 セールスディレクターの柿島英和氏は、サービス開発の背景を次のように話す。「サービスエリアや接続の容易性、セキュリティの面からIoTに最適な通信方式はセルラーサービスなのですが、料金面での課題がありました。そこで、“モノ向け”に特化し費用対効果や自由度の高いサービスを開発したのです」。

クラウド上の独自システムで 多彩なサービスを続々開発

ソラコムは、NTTドコモの3G/

LTE通信網とアマゾンが提供するクラウド環境「Amazon Web Services」(AWS)を融合したセキュアなIoTプラットフォームを構築。AWS上で独自開発したソフトウェアベースの通信システム「SORACOM vConnec Core」を運用し、柔軟かつスピーディなサービス開発を実現している。

この優位性を生かし、同社では「SORACOM Air」に加えデータ転送支援(暗号化やプロトコル変換など)、ユーザー側システムとのクラウド連携や専用線、VPNなどによる接続、デバイスの遠隔制御、保管データの可視化など多様な付加サービスや新機能を次々とリリースしている。

また、グローバル展開では、米欧ですでにサービス提供を開始。今後はアジア地域にも広げていく構えだ。

対応デバイスやソフトウェアなどのソリューションの提供、SI、ネットワーク接続といった導入支援は、パートナープログラムに基づいた認定企業と連携して進めている。パートナー申請は260社を超え、認定企業も60社近くに達している。接続検証を済ませた認定デバイスはルーターやゲート



ソラコム 執行役員 セールスディレクター
柿島英和氏

ウェイ、モジュール、カメラやスマホといった端末類なども含めて総計60種以上にのぼる。

1年半で5000超のユーザーを獲得 世界を視野にサービス拡充に注力

「SORACOM Air」の国内ユーザーは2017年2月時点で5000を超えている。「試験的な導入から本格利用へと移行されるお客様も多く、SIMカードの発行枚数が顕著な伸びを示しています」と柿島氏は話す。

ユーザー側からは手軽かつ低コストで導入・運用できることに加えて、Webコンソールの使いやすさも高評価を得ているとのことだ。

ソラコムでは今後も、グローバルを視野に入れてサービスの強化・拡充に一層注力していく考え。さらに、LPWA規格の1つである「LoRaWAN」に対応した「SORACOM Air for LoRaWAN」を正式リリースするなど、新たな技術の取り込みにも積極的。「当社のスピーディな開発力を生かして、お客様のニーズや課題に応えるサービスメニューを増やし、IoT市場の拡大に寄与していきたい」(柿島氏)という。

図 ソラコムが提供するIoT通信プラットフォーム

